

幼児の性的行動（２）

——父母の眼を通して——

池 田 政 子

§ 1 目的および方法

前報（池田 1988）では、乳幼児のセクシャリティの一側面としての顕在的行動について、保母より収集された資料の分析を行い、このような行動が保育現場において一般的に観察される行動であることを確認し、さらに発達の差異、性差、保母の応対等について検討した。本報告では、同様の行動について父母より収集された資料を、以下の観点から分析する。

- １）家庭という場において、幼児のどのような性的行動が父母によって観察されているか。
- ２）父母はどう応対しているか。
- ３）上記二点について、幼児の性別・年齢による差異、父親と母親の差異がみられるか。

本報告は、1983年に行った調査によって得られた資料の一部に基づいている。質問紙全体の構成を始め調査の概要については既に述べたが（池田 1985）、本報告での分析対象は表１のとおりである。（ ）内の数字は、対象児のうち父母両者の回答が得られた場合（対データ）であり、他は母親のみからの回答である。質問内容は次のようであった。

「お子さんが次のようなことをするのを見たことがありますか。あるものについて、そのときのようにすをお答え下さい。」

あげられている行動は次の７項目である。

- ①自分の性器をいじる
- ②性器を人に見せる
- ③トイレをのぞく
- ④「ウンチ」「オチンコ」などのことばを言いまわって面白がる
- ⑤体（胸、性器など）にさわりたいがる
- ⑥スカートめくりなどで遊ぶ
- ⑦テレビでキスシーンなどを見て恥ずかしがったり騒いだりする
- ⑧その他、子どものした事でよく覚えていること

見たことのある行動については、子どもが何歳の時か、どんな場面でか、その時どのような応対をしたか、それぞれ記入を求めた。回答は、対象児の誕生から記入時点までの時間的範囲を含む回想によるものであり、この点は前報の保母の場合と異なっている。回想すべき時間的範囲の大小により、記憶の正確さにばらつきがある可能性を考慮し、該当する行動を観察した時の子どもの年齢については量的分析の対象とはせず、参考として用いるにとどめた。

§ 2 結果および考察

１～３歳児のサンプルが少ないことを考慮して、量的分析は主として４～６歳児について行った。

１．観察経験率（４～６歳児の父母：対データ）

質問紙にあらかじめ与えられた７項目の行動のうち、見たことがあるとして回答のあった項目の数（観察件数）を各対象児について算出した。対データを用い、父親および母親の観察件数の平均を示したのが表２の〔Ａ〕である。父母と対象児の性別との交互作用はみられず、子どもの性別にかかわらず、男女児ともに父親よりも母親

表 1 分析対象児の構成

年齢 性別	1～2			計	4 5 6			計
	1	2	3		4	5	6	
女児	12 (7)	22 (12)		34 (19)	44 (19)	84 (49)	62 (30)	190 (98)
男児	14 (7)	26 (15)		40 (21)	65 (41)	93 (64)	49 (37)	207 (142)

()内は対データの取れた対象児数

の観察件数が多い。ただし、各家庭ごとに父親と母親の観察件数を比較すると(表3)、母親の観察件数が父親よりも多い家庭はおよそ半数で、父親の方が多い家庭も約2割ある。これも男女児同様の傾向であった。以上より、一般に母親の方が子どもの多様な性的行動を観察しているが、家庭による違いも見られることを指摘できる。

表2 4～6歳児の父母の観察件数の平均
(対データ)

	女兒(N=98)	男児(N=142)
[A]父母×子どもの性別	父親 $\bar{x}$ 2.01(1.73) 母親 $\bar{x}$ 2.85(1.88)	父親 $\bar{x}$ 2.22(1.61) 母親 $\bar{x}$ 3.07(1.93)
[B]父母の少なくとも一方によって観察された項目数の平均	3.47(1.97)	3.65(1.84)

()内は標準偏差

*1 $t=3.226$, $df=194$, $p<0.01$

*2 $t=4.020$, $df=282$, $p<0.01$

*3 $t=0.742$, $df=238$, $0.4 < p < 0.5$

表3 各家庭ごとの父母の観察件数の比較
(4～6歳児、対データ)

	女兒	男児
母親>父親	48.0(47)	52.8(75)
母親=父親	29.6(29)	26.1(37)
母親<父親	22.4(22)	21.1(30)
計	100.0(98)	100.0(142)

数値は百分率、()内は実人数

さらに、各対象児について、その父親あるいは母親の少なくともどちらかによって観察された項目数を算出し、これを家庭で顕在化される幼児の性的行動の種類の多様性の指標と見なした。図1のように、男女児共に分布の範囲は0～7であり個人差が大であるが、性に関する

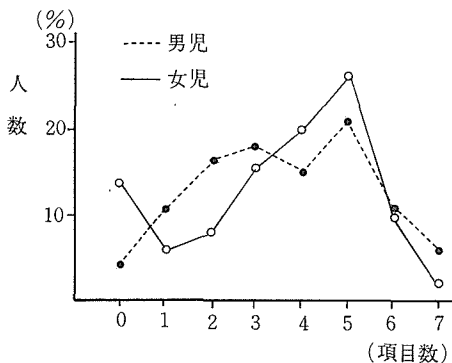


図1 観察された性的行動の項目数の分布

る質問(池田 1985)に比べ、「0件」の割合が少なくより一般的な現象であると言える。男児と女児の平均値には有意差はなく(表2の[B])、家庭で観察される性的行動の多様性に関して性差はみられなかった。

2. 行動別観察経験率(4～6歳児の父母：対データ)

次に、項目ごとに父親あるいは母親の少なくともどちらかによってその行動を観察された対象児の割合を算出し、各行動が観察される一般性の程度を比較した(表4)。

「ウンチ・オチンコなどのことばを言い回って面白がる」「自分の性器をいじる」が最も多く、対象児の7割以上で観察されている。次いで「体にさわりたいがる」、「トイレをのぞく」が5～6割、「テレビでキスシーンなどを見て恥ずかしがったり、騒いだりする」が3～4割となっている。また、各行動の性差は、「自分の性器をいじる」に関してのみ有意であり、男児は女児よりも約2割多く観察されている。その他の行動については統計的に有意な性差はみられなかった。全体的に男児に関する観察率が女児よりもやや高い傾向にあるが、「トイレをのぞく」「キスシーンなどを見て・・・」については女児の方が高かった。

表4 各行動の観察された対象児の割合
(4～6歳児、対データ)

性別 \ 行動	①自分の性器をいじる	②性器を人に見せる	③トイレをのぞく	④「ウンチ」「オチンコ」などの言葉を使う	⑤体にさわりたいがる	⑥スカートめくりなどで遊ぶ	⑦テレビでキスシーンなどを見て・・・
女兒(N=98)	62.2	32.7	57.1	69.4	57.1	20.4	48.0
男児(N=142)	80.3	35.9	48.6	78.2	62.7	28.2	38.7
男女児コミ(N=240)	72.9	34.6	52.1	74.6	60.4	25.0	42.5

数値は百分率

観察率の父母間の差と子どもの性別との関係を図2に示した。明確な性差がみられた「性器をいじる」に関しては父母間に差がなかったが、他の行動については男女児ともに全般的に母親の観察率が高かった。特に父母の観察率の差が大であったのは、「体にさわりたいがる」(男女児とも)、「キスシーン・・・」(女児)、「スカートめくり」(男児)であった。また、「キスシーンなどを見て・・・」「スカートめくり・・・」に関して父母と子どもの性別との交互作用の傾向がみられるが、情報分析による χ^2 値からは有意差は検出されなかった。

3. 1～3歳児の父母の観察経験

4～6歳児と比べ資料の得られた対象児が少ないので、直接比較することは難しいが、各年齢群について収集できた全観察件数に対する各行動の割合を、その年齢に至るまでに顕在化される性的行動の構造的な様相を示すものとし、これを比較した(表5)。1～3歳の特徴として、男児の「性器をいじる」行動の比率が他の行動よりかなり高くなっていること、男女児共に「スカートめくりなどで遊ぶ」

「テレビのキスシーンを見て・・・」が4～6歳児に比べ非常に少ないことが指摘できよう。また全般に、「トイレをのぞく」行動も1～3歳児の方が比率が高い。1～3歳児について各行動が母親によって観察された件数を見ると(表6)、1歳児で報告されているのは「性器をいじる」(男児)と「トイレをのぞく」(女児)行動のみである。2歳児では5項目の行動と多様になっているが、男女児共に「スカートめくり・・・」「テレビのキスシーン・・・」は報告されておらず、3歳児で7項目全ての行動が観察されている。

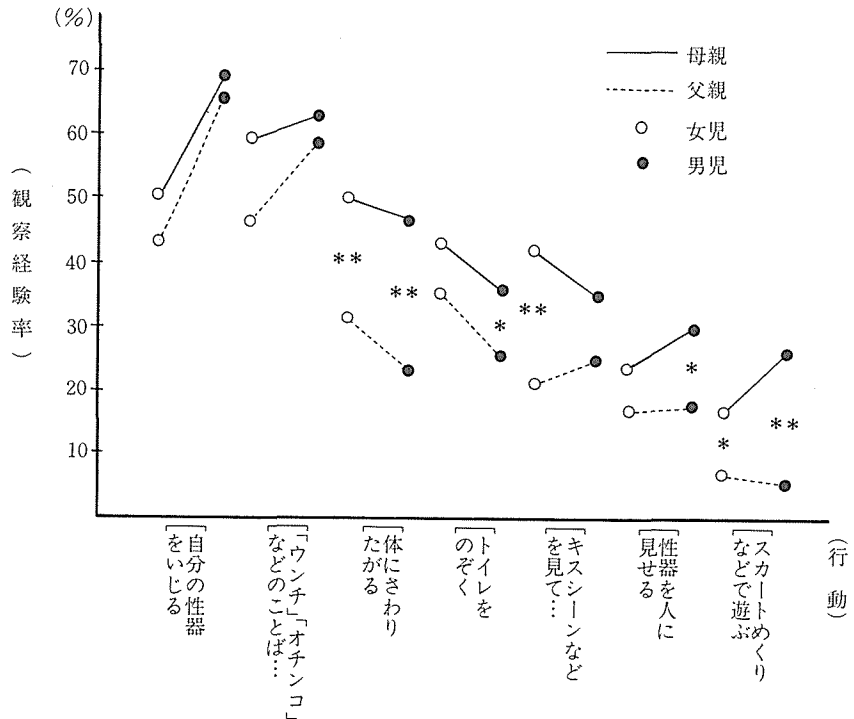


図2 各行動の観察経験率(父母と子どもの性別との関係:対データ)

**, *はそれぞれ1%, 5%の水準で、父母間に有意差(χ^2 検定による)のみられたことを示す。

表5 1～3歳児と4～6歳児の性的行動の様相の比較

性別	観察者	年齢群	項目							全観察件数	対象児数(N)
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
女児	父親	4-6	21.3	8.6	17.8	22.8	15.2	3.6	10.7	197	98
		1-3	26.5	2.9	26.5	23.5	17.6	0.0	2.9	34	34
	母親	4-6	17.6	8.2	15.1	20.8	17.6	6.1	14.7	279	98
		1-3	18.3	5.0	21.7	23.3	18.3	3.3	10.0	60	34
男児	父親	4-6	29.8	8.3	11.1	26.3	10.5	2.9	11.1	315	142
		1-3	37.8	13.5	18.9	18.9	8.1	0.0	2.7	37	40
	母親	4-6	22.7	9.9	11.7	20.6	15.4	8.5	11.2	436	142
		1-3	35.4	10.4	12.5	20.8	14.6	2.1	4.2	96	40

*数値は各群の全観察件数に対する百分率。1～3歳児については、対データ以外の母親のみからの資料も含む。

表6 1～3歳児の性的行動(母親の観察件数)

項目	女児							児対数	男児							児対数
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
3歳児	7	2	12	12	6	2	6	22	21	9	10	18	11	2	4	26
2歳児	4	1	0	2	5	0	0	10	8	1	2	2	3	0	0	9
1歳児	0	0	1	0	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	0	5

4. 各行動の特徴と父母の対応 (1～6 歳児)

の保母のカテゴリー化に沿って分類したものである。対データ以外に、母親のみ回答のあった対象児も含め、前報の保母による資料と比較しながら検討した。

表7は、各行動が観察された時の父母の対応を、前報

表7 幼児の性的行動場面での父母の対応 (1～6 歳児)

①性器をいじる	女 児		男 児	
	父	母	父	母
困ったが何も言わない	0.0	3.1	1.9	1.7
あまり気にせずそのままにしておく	28.8	18.6	38.9	24.4
注意を他に向ける (遊びに誘う、本を読んでやる)	0.0	1.0	0.0	1.7
理由を説明せず禁止 (さわっちゃだめ、やめなさい、早くトイレに行きなさい、手をビジャリとした、黙って手を離させる、オムツをあててしまう)	15.4	11.3	29.6	14.5
不合理なおどし (オベッコがどっかへいっちゃう、取られちゃう、虫にくつかれる、オチンチンが取れちゃう、腐る、曲がる、血が出る)	3.8	3.1	0.9	6.4
理由を説明して注意	42.4	53.6	24.1	45.4
・きたないからさわっちゃだめ、手がきたなくなる、くさくなる	7.7	9.3	0.0	5.2
・バイキンが入って痛くなる、病気になる、オシッコが出なくなる、きれいにしておこう	21.2	30.9	18.5	29.7
・大切なところだからいじらない、オシッコの出る大切なところだから、大事なところで病気になったら困る	13.5	12.4	5.6	10.5
・その他 (行儀が悪い)	0.0	1.0	0.0	0.0
呼びかける (かゆいの? どうしたの? なにしてる?)	3.8	2.1	0.0	2.9
かゆみの処置 (洗う、薬をつける)	0.0	5.2	1.9	0.0
勃起についての指導	0.0	0.0	0.0	1.7
無 回 答	5.8	2.1	2.8	1.2
全 件 数	52	97	108	172
②性器を人に見せる				
困ったが何も言わない	5.3	2.2	9.7	5.4
あまり気にせずそのままにしておく	47.4	31.1	35.5	20.3
理由を説明せず禁止 (よしなさい、早くしまいなさい、そんなことするな、早くパンツをはきなさい、トイレに行きなさい、こら!)	15.8	8.9	25.8	12.2
不合理なおどし (虫が入る、鬼が取りにくる、曲がっちゃう、猫が食べる、みんなが欲しがる)	0.0	4.4	3.2	13.5
理由を説明して注意	15.8	46.6	12.9	46.0
・風邪をひく	0.0	0.0	3.2	2.7
・恥ずかしいこと、みっともない、かっこ悪い、笑われる	0.0	17.8	3.2	12.2
・人に見せるものではない、大事なところだからしまっておく、女の子だから隠しておく	10.5	24.4	6.5	27.0
・痛くなる、しまっておかないと病気になる、きれいにしておく所	0.0	4.4	0.0	4.1
・その他 (友達に嫌われる、おりこうな子はしない)	5.3	0.0	0.0	0.0

その他(オチンチンは誰も見ない、勃起についての指導)	0.0	2.2	3.2	0.0
無 回 答	15.8	4.4	9.7	2.7
全 件 数	19	45	31	74

③トイレをのぞく

困ったが何も言わない	0.0	1.6	4.4	3.6
あまり気にせずそのままにしておく	29.5	28.7	35.6	27.7
理由を説明せず禁止 (やめなさい、だめ、しめなさい、向こうへ行っていないさい)	29.5	16.1	28.9	24.1
理由を説明して注意	27.3	31.0	24.5	32.5
・きたないから(くさいから)しめて(やめて)	4.5	6.9	6.7	3.6
・のぞくものではない、トイレは一人で入る所、行儀が悪い、人が入っている時はドアを開けない、順番だから外で待ってて	20.5	11.5	11.1	20.5
・恥ずかしいからしめて、オシッコができない、人のいやがることはしない、自分もされたいや	2.3	12.6	6.7	8.4
機会を捉えての積極的指導(排尿・排便に関するしつけ、生理について、異性の排尿の仕方など)	0.0	5.7	2.2	0.0
一緒に入らせる	0.0	5.7	0.0	0.0
その他(〇〇ちゃんはエッチね、オシッコ出るの?、どうしたの?、トイレから出てしまうなど)	4.5	2.3	4.4	7.2
無 回 答	9.1	5.7	0.0	4.8
全 件 数	44	87	45	83

④「ウンチ」「オチンコ」などのことばを言い回って面白い

困ったが何も言わない	3.6	6.0	1.1	1.3
あまり気にせずそのままにしておく	48.2	40.5	61.1	41.1
不合理なおどし(チンチン取るぞ、おまわりさんに連れて行かれるなど)	3.6	0.0	1.1	0.7
注意・叱る(内容不明)	0.0	0.0	8.9	8.6
理由を説明して注意	35.7	44.8	22.2	39.1
・そんなこと言うものではない、人前でそういうことは言わない、みっともないからよしなさい、おかしいこと、恥ずかしいこと、人に笑われる	33.9	31.0	14.4	21.9
・きたないことは言わない、きれいな言葉ではない	1.8	13.8	6.7	13.2
・その他(食べるときは言わない、ふざけて使ってはだめ)	0.0	0.0	1.1	4.0
機会を捉えての積極的指導(男女の体の違いなど)	3.6	0.9	0.0	0.0
一緒にふざける	1.8	0.0	0.0	1.3
その他(きたないなあと笑う、ウンチ・オシッコが好きじゃ困るね、トイレにいったいで、うんちしたいの?)	0.0	2.6	0.0	2.6
無 回 答	3.6	5.2	5.6	5.3
全 件 数	56	116	90	151

⑤体にさわりたいがる

困ったが何も言わない	5.4	5.1	0.0	3.6
あまり気にせずそのままにしておく	56.8	48.0	62.9	48.6
軽く注意・禁止(だめよ、やめなさい、いけません、こら、手をぶつ)	21.6	6.1	14.3	9.0

理由を説明して注意	8.1	6.1	5.8	10.8
・そんな所はさわるものじゃない	5.4	0.0	2.9	0.0
・恥しいから、いやだからやめて、大事なものだからさわらないで	0.0	1.0	2.9	5.4
・もう大きいんだから恥ずかしい、もう赤ちゃんじゃない	0.0	5.1	0.0	5.4
・バッチイからさわっちゃだめ	2.7	0.0	0.0	0.0
機会を捉えての積極的指導	2.7	12.2	2.9	8.1
・オッパイと赤ちゃんの関係、赤ちゃんの時の話	0.0	11.2	0.0	8.1
・その他(男女・大人と子どもの体の違いなど)	2.7	1.0	2.9	0.0
一緒にふざけて遊ぶ、子どもの体もさわる	0.0	5.1	5.7	2.7
スキンシップをはかる、赤ちゃん扱いする	0.0	1.0	0.0	0.9
その他(赤ちゃんみたい、オッパイのむ?、エッチね)	0.0	8.2	2.9	10.8
無 回 答	5.4	8.2	5.7	5.4
全 件 数	37	98	35	111

⑥スカートめくりなどで遊ぶ

困ったが何も言わない	14.3	5.3	11.1	3.8
あまり気にせずそのままにしておく	42.9	44.7	77.8	28.3
禁止する(やめなさい、いけない、おかしい)	14.3	18.4	11.1	34.0
理由を説明して注意(人のいやがることはしない、恥ずかしいからやめて、エッチなこと、皆に嫌われる)	14.3	10.5	0.0	24.5
その他(「いやでしょ」と本人にもする、スカートめくりは男がすること、されたことへの応対)	14.3	13.2	0.0	0.0
無 回 答	0.0	7.9	0.0	9.4
全 件 数	7	38	9	53

⑦テレビでキスシーンなどを見て恥ずかしがったり騒いだりする

困ったが何も言わない	4.3	11.6	5.6	2.8
笑ってごまかす	0.0	2.3	5.6	0.0
あまり気にせずそのままにしておく	60.9	58.1	61.1	52.8
注意を他に向ける	4.3	3.5	0.0	6.9
見ることを禁止(見るな、眼をふさぐ、チャンネルを替える、消す)	8.7	7.0	2.8	6.9
説明を与える(仲良しね、愛し合っているから、大人になったら好き合っている者同士キスしていい、知らない人とはいけない)	0.0	12.8	8.3	4.2
その他(子どもの発言に受け答え、子どもにキスする、エッチな大人になるよ、子どもの顔をよく見るなど)	17.4	2.3	11.1	16.7
無 回 答	4.3	2.3	5.6	9.7
全 件 数	23	86	36	72

数値は各群の全観察件数に対する当該の応対の百分率

①性器をいじる

応対のカテゴリーは保母の場合と類似している。注意をする場合の説明理由も同様の内容であり、「痛くなる、病気になる」が最も多い理由である点も同じだったが、

「かゆみの処置」、「勃起についての指導」(事例14、16)、「不合理なおどし」(事例4、17)は保母にはみられない応対であった。全体的には禁止あるいは注意という方向での応対が各群(父親・母親×子どもの性別)とも多い。しかし、「あまり気にせずそのまま」という応対も2～4

割で、保母の場合（5%）よりかなり多くなっている。逆に「注意を他に向ける」「理由を説明して注意」が保母（それぞれ17%、61%）よりも少ないという特徴がみられる。

また父母の対応の違いが顕著であった。全体的に母親は子どもの性別によって対応があまり違わないのに対し、父親の場合、男児を持つ父親と女児を持つ父親との差異がみられる。「あまり気にせずそのまま」は概して母親より父親に多いが、さらに女児の父親よりも男児の父親に多くなっている。また男児の父親では「理由を説明しての注意」が他群より少なく、「理由を説明せず」が多い。

行動が観察された場面は、男女児共約7割が「入浴・排泄・オムツ交換・着替えなどで裸になった時」であり、「就寝時・テレビを見ながら」などいわゆる「自慰」と明らかに推測できるものは男女共に約2割であった（事例3、6、7、12、15）。保育所で観察された行動場面は2歳児クラスまでは排泄時が多く、3歳児クラス以上になると「午睡時・遊んでいる時」が多くなる傾向があり、乳児期よりの身体への探索行動に「自慰」という心理的意味が加わってくることを指摘したが、家庭で観察された行動からもこのことが確認できる。今回収集された資料で最も早い年齢の事例は男女児共に8～9ヶ月であり（事例1：排泄時、10：入浴時）、「自慰」と推測できる事例は3歳からのものであった。しかし、自己の身体への探索として「性器をいじる」行動は、年少児に限らないことがいくつかの事例に見える。女児に関しては事例5、8の様に、いじりながら「見ている」・「ながめる」という記述が5例（3歳1例、4歳3例、6歳1例）に見られ、男児では事例14のように、「勃起時にいじる」というものが6例あった。

〔女児の事例〕

- 1) 8、9ヶ月より（2歳児、母親）：オマルに座る時、パンツを脱いだ時→「ばっちいからだめよ、痛くなるからいやいや」
- 2) 2歳時（3歳児、父親）：排尿後に→「大事なところだからいじってはだめ」
- 3) 3歳頃から（6歳児、父親）：うつぶせになって下半身を動かす→「なにしてるんだ」
- 4) 3歳時（6歳児、父親）：風呂から出て→「オベッコばかりいじっていると、オベッコがどっかにいっちゃうよ」

5) 3歳時（4歳児、母親）：風呂から上がりきれいになったか見ながら→「そんなにいじっては赤ちゃんが出てこないよ」

6) 3歳時（4歳児、母親）：テレビを見ている時→「よしなさい。大切な所だから、バイキンが入ると困るから」

7) 3歳時（4歳児、母親）：眠る前→「くさい所でしょ、パンツにしまっておきなさい」

8) 4歳時（6歳児、母親）：入浴時、いじりながら見ている→「おしっこが出る所だから、きたないからよしなさい」

9) 5歳時（5歳児、母親）：排尿時→「そこは大事な所だから、手にバイキンがついていると、よごれるよ」

〔男児の事例〕

- 10) 9ヶ月時（5歳児、父親）：入浴中など、不思議な様子で引っ張ったりする→あまり気にせずそのまま
- 11) 2～3歳時（6歳児、父親）：入浴時、兄弟二人で→「大事なところだからいじっちゃだめ」
- 12) 3歳時（5歳児、母親）：テレビを見ながら・入浴後→「オチンチンはいじるものではありません。さわったりすると、オチンチンにバイキンが入って、注射しなければならなくなる。」
- 13) 3歳時（5歳児、母親）：一生懸命ゴミを取っていた→どうしてと聞くと、友達がやっていたからと言う。「そんなところをいじると、オシッコが出なくて痛くなるよ」と言った
- 14) 3～4歳時（5歳児、母親）：ズボンの上からさわっていて、「大きくなった」と言う→「トイレに行きたいんじゃない？ オシッコがいっぱいになると大きくなるんだよ」と言うのと分かった様子
- 15) 4歳時（6歳児、母親）：二階や戸を閉めた人のいないところで→遠くから呼んで注意を他に向けさせた
- 16) 4～5歳時（6歳児、父親）：小便がたままって大きくなった時や入浴時→そこはきれいにしておけばいい、それ以外はいじるなどと言う
- 17) 5歳時（5歳児、母親）：ズボンの上から→チンチンが腐ってしまおうと言って叱った

- 18) 5歳時(5歳児、母親):入浴後→「男の子の大切なところで、病気になったら大変だから早くしまいなさい」

②性器を人に見せる

観察された場面は、「入浴時・排泄時など裸になった時」が最も多い。特に父親では大半がこの場面であるが(女児78.9%、男児71.0%)、母親の場合は約半数で(女児55.6%、男児50.0%)、それ以外に「遊んでいて・ふざけて・調子づいて」と記述されたものが、特に男児に多かった(女児24.4%、男児39.9%)。男女児共、2歳から事例がみられ(事例19、20、25)、友達やきょうだいとの「見せっこ」も報告されている(事例22、28)。また男児の場合「勃起時」も5例あり(事例26、29、32など)、事例32では「自慢して」と記述されている。事例30のように女児に対して「得意気に」という記述もみられ、事例25の2歳男児のように、自己の身体的特徴の確認が性自認、さらに価値意識を含んだ性差意識へとつながって行くことを、断片的にはあるが示している。女児に関してはこのような記述は全くみられない。

父母の対応の категорияは、この行動についても保母と概ね同じであるが、その比率には大きな違いがある。「性器をいじる」行動への対応と同様、保母では「あまり気にせず」は7%に過ぎないが、父母の場合この対応がかなり多く、特に女児に対して多いことが「性器をいじる」場合と異なった特徴である。

また「性器をいじる」行動以上に父母の対応の違いが大きい。母親では男女児共に「理由を説明しての注意」が5割弱で最も多いのに対し、父親の場合、女児に対しては「あまり気にせず」が約5割と最も多く、男児に対しては「あまり気にせず」が36%、「理由を説明せず禁止」が26%となっている。母親は男児に対して「不合理なおどし」が多いことが目立つ(事例25)。また女児に対して「女の子だから・・・」という理由を含めた説明をした3例(事例20など)は、全て母親であった。

〔女児の事例〕

- 19) 2歳時(2歳児、母親):入浴の後、手で広げて見せる→痛い痛いになるからと言って、パンツをはかせた
- 20) 2歳半頃(4歳児、母親):入浴時、兄達に面白がって→「女の子だからそんなことしないで。恥ずかしいでしょう」
- 21) 3歳時(3歳児、母親):排尿後、パンツをはく前に、足を開き「オシッコ、パー」と言いながら見せる→「そんなことをするもんじゃない。早くパンツをはきなさい」

- 22) 3歳時(6歳児、母親):同年の男の子と部屋の隅で→大切なところだから、いたずらしたり見せたりしないように言った

- 23) 4歳時(4歳児、母親):遊んでいてふざけてパンツを下げる→「パンツをはいていないと虫が入るよ」

- 24) 5歳時(6歳児、父親):家族の前でふざけて→「そんなことをする子は友達に嫌われる。おりこうな子はしない」

〔男児の事例〕

- 25) 2歳半(4歳児、母親):トイレに行ってきた後、いここに「僕にもあるよ」と行って見せる→自分も男なのだと確認しているのだから気にしないが、長い間出している時は、「虫に食べられちゃうよ」と言う

- 26) 3歳時(5歳児、母親):オシッコの前に性器が大きくなった時→やたらと人に見せるものではないと注意した

- 27) 3歳時(6歳児、母親):姉の友達などにふざけて→それはやたらに人に見せるものではない

- 28) 3歳時(5歳児、母親):着替えをしている時に兄弟で見せっこ→そんなところは人に見せたり見せっこするものではない

- 29) 4歳時(6歳児、父親):「パパ、チンチンがかたくなつたよ」→「いじらなければ直るから、そっとしておきなよ」

- 30) 4歳時(4歳児、母親):妹に対して得意気に→「恥ずかしいからもうやめよう」

- 31) 5歳時(5歳児、母親):ふざけてパンツを下げて→「みんながチンチンを見たら恥ずかしいんだよ」

- 32) 5歳時(5歳児、母親):朝起きた時、大きいから自慢して→「早くトイレに行きなさい」

- 33) 6歳時(6歳児、母親):兄弟同士で遊んでいる時ふざけて→「大事なところだから、ちゃんとズボンはいて大事にしておくのよ」

③トイレをのぞく

保育所でこの行動が観察されるのは、「集団でトイレに行った時・順番を待っている時」など、自分がトイレに行くという行為が誘因となる場面が8割を占めていたが、家庭では「家族が入っている時、家族についてきて、

母親を探して」など、家族の誰かの行為が誘因である場合がほとんどであった。ただし、その動機については事例から次の3種が区別できる。乳児期後期から幼児期前期にかけての分離不安による後追いの結果と考えられる場合(事例34、36、47)、排泄・「生理」という現象やそれに関連した行為・性差に関心を持ての探索行動(事例37、38、41、43、44、48)、「遊び」としての行為(事例39)である。事例によれば、第1の動機は3歳まで、第2の動機は乳幼児期を通じて、第3の動機は3歳からと言える。第3の動機については、保育所で「遊びの時間にふざけて」という場面が、3歳児クラスで多かったことに対応している。

上記①、②の行動と同様に、父母の対応は「あまり気にせずそのまま」が保母(9%)に比べかなり多く、事例34、47のように「一緒に」という例もみられる。逆に「理由を説明して注意」は少ない(保母では51%)。その「理由」も保母では「恥ずかしさ・自分がされたらいや」など共感性に訴えるものが多かったが、父母では礼儀・約束事としての注意が多かった。また、事例36、37、45のようにその場面を積極的に指導に利用しようとする対応は、保母にはみられなかったものである。この行動については、父母間の対応の違いが比較的少なかった。

〔女児の事例〕

- 34) 1歳半(1歳児、母親)：トイレに入る時ついて来る→だっこして一緒に座る
- 35) 2～3歳時(3歳児、父親)：トイレに入っている時、一緒に入りたがる→「すぐに出るから待ってなさい」
- 36) 3歳時(5歳児、母親)：母親の後をついて来て→生理の時見られることもある。叱ったり、時には女の子なのでいろいろ教えた。
- 37) 3歳時(5歳児、母親)：ついて来て、「お母さんはどうやっておしっこするの?」→「みんな同じよ」
- 38) 3歳時(3歳児、母親)：ついて来て、「お母さんウンチするかな?」→「ウンチ、出てくるかな? 出るといいね」
- 39) 3歳時(3歳児、母親)：姉が入っている時ふざけて→母親は黙っていたが、姉に叱られて、それからはない
- 40) 3歳時(4歳児、母親)：父親がトイレに行くと、後をついて行って→あまり気にせずそのまま
- 41) 4歳時(6歳児、父親)：トイレにいる時、下からのぞく

→あまり気にせずそのまま

- 42) 4歳時(6歳児、母親)：友達の男の子が入ったら→黙っていた

- 43) 5歳時(6歳児、母親)：生理用品を持って入る時→「お便所は見るために入ってはいけないの。落ち着いてできないから」と追い出した

〔男児の事例〕

- 44) 2歳時(5歳児、父親)：父親がトイレに入っている時→中に入れてやった。段々年が上がっていくに従って、興味を無くしていった。

- 45) 3歳時(6歳児、父親)：父親がトイレに入っている時→どの様に用を足すのか分からせるにはよいと思い、そのままにしておいた

- 46) 3歳時(5歳児、母親)：誰も部屋にいない時・行かれては困る時→一緒に子どもと入った

- 47) (3歳児、母親)：ウンチが出て来るのを見るのが面白くて→そんなことをしちゃだめよ

- 48) 4歳時(4歳児、父親)：「一緒にシッコしよう」と言う→一人ずつした方がいいと言う

- 49) 4歳時(5歳児、母親)：弟がトイレに入った時→弟の時は気にしないが、女の子の時は「恥ずかしいからだめよ」と言って叱る

- 50) 5歳時(5歳児、母親)：(自分が一人で入る時ついて来てもらうので)ママが入っている時、僕がそばにいてあげると言って→ママは大丈夫と言った

- ④「ウンチ」「オチンコ」などのことばを言いわって面白がる

観察された場面は、保母の資料と同様「遊んでいて・ふざけて」が最も多い(男児64.9%、女児58.6%)。ただし、その時の相手は友達以外にきょうだいが加わることが家庭の特徴である。また、けんかの時、叱られた時の攻撃の言葉として用いた場合(男児6.6%、女児6.9%：事例54、60、63)(保母の資料にもみられた)、あるいは事例65のようにテレビ番組に誘発されてというものも(男児4.6%、女児7.8%)、少数ではあるが報告されている。また年少児では、排泄時、入浴時、形状の似ている物を見た時に誘発される場合が多かった(事例51、52、

58)。

①～③の行動に比べ、保母の場合も「あまり気にせず」という対応が多かった(19.6%)が、父母ではさらに多く、特に男児の父親で最多となっている。このような対応の背景には事例64、65に記述されたような「子どもにはこのような時期があり、それは一過性のものだ」という考え方があると思われる。

母親の対応は子どもの性別による違いがあまりないのに対し、父親は男児に対してより許容的であり、「そんなことは言うものではない・みっともない」など約束事である点を示す注意が女兒に対して多くみられる。後者に関しては母親の場合も父親程ではないが同じ傾向がみられる。事例55、56のように「女の子が・・・、女の子だから・・・」という言い方を冠しての注意は、全体で5例あり、うち4例は母親であった。さらに、③の行動と同様、排泄や性を自然で大切な現象として教えようとする例もみられた(事例53—②、63)。

〔女兒の事例〕

51) 2歳4ヶ月より(2歳児、母親): オシッコに行くとき、パンツをぬいで男の子が立ってする真似をして、「オシッコ、チンチン」などとふざける→そういうことを言うとおかしいと話した

52) 2歳半(2歳児、父親): 一緒に入浴する時→「お父さんは男だからね」

53) 3歳時(3歳児、母親): 家に帰って来れば所かまわず言う→①「○○ちゃん、そんなにウンチすき」と聞くと、「うん」とうなずくので、「ウンチ食べたか?」と言うと「いや」と言う。②「オチンコが無かったら困るじゃないの。オシッコどこからやるの?」

54) 4歳時(6歳児、母親): 言うことを聞かないので怒ると、「ウンチ」を連発する→あまり気にせずそのまま

55) 5歳時(6歳児、父親): 子ども同士で遊んでいる時→「女の子だから変なことを言っはいけない」

56) 5歳時(6歳児、母親): 弟をからかって→「女の子がそういうことを言うのはおかしいことなのよ」

57) (年齢はか不明)弟のおむつを替えるとき面白がって→「そんなこと言うんじゃないの」

〔男児の事例〕

58) 2歳時(2歳児、母親): 薄茶色の菓子とかウンチに似て

いるものを見た時→あまり気にせずそのまま

59) 2歳半(3歳児、母親): 言葉の最後に続けて言って面白がる→一応軽く叱る

60) 3歳時(3歳児、父親): おこられた時くやしそうに→あまり気にせずそのままにしておく

61) 3歳時(4歳児、母親): 自分に関心を持ってもらいたい時など連発する→話相手になってやる

62) 4歳時(5歳児、母親): 一時期はそういう言葉ばかりで、歌にしたりしてふざけていた→最初は知らん顔していたが、あまりひど過ぎて黙っていられず、やめなさいとにらんだ

63) 4歳から(5歳児、母親): 妹とけんかした時などよく言う→「みんなウンチもするし、男の子にはオチンコ、女の子にはオマンジュもあるから、そんなこと言わない」

64) 4歳時(6歳児、母親): 友達同士で話している時・機嫌の良い時→言ってみたい時期があると思うので無理に止めない。人前で言うのを注意する。

65) 5歳時(6歳児、父親): テレビの番組を見て「まきぐそ」と言う→一時的なもので、年齢が増せばどういふことか分かると思うのでそのままにしておいた

⑤体にさわりたがる

観察場面は「入浴時・裸になった時」が最も多く、他に「就寝時・遊んでいる時・甘えたい時・下の子が母乳を飲んでる時」などであるが、保母の場合より現実の裸体が誘因となっている例が多い。父親の回答には母親や祖母の胸にさわる事例も6件含まれていたが、その他は大部分が父親の性器に触れるものであった。母親の場合はほとんどが乳房である。

この行動への対応は①～④に比べ父母共に非常に受容的である。禁止や注意という対応は女兒の母親で最少であり、最多の女兒の父親でも3割に過ぎない。この種の対応は保母の場合も3割弱と①～④の行動に比べ極端に少なかったが、さらに父母では「あまり気にせず」が、い点が保母(23%)とは異なっている。保母では「一緒にふざけて遊ぶ・スキンシップをはかる」という対応が26%あったのに対し、父母では少ない(事例68、80)。保母は、特に年長児がこの行動を「ふざけて」ではなく保母に向ける場合には、家庭での「欲求不満・愛情不足」の代償行為と見なす傾向があり、これが意識的にスキン

シップを図る応対を選択させていると考えられる。一方家庭の場合、母親の乳房に触れる行為に関しては子どもの動機や情緒を、「照れるように・恥ずかしそうに・嬉しそうに・甘えて」と認識している事例が子どもの性別を問わず少なからずみられたが(事例67、74、81、83など)、父親の性器に触れる行為に関しては「珍しそうに・ニコニコ」と記述されたもの(事例69、73)以外は、乳房の場合のような記述はほとんど無かった。このように父母自身が2種の行動に異なった動機を認識する傾向がみられるが、乳房が対象である点で保母と比較し得る母親の場合、年長児に対して非常に受容的であり、「ふざけて」と記述されている事例も少ない。また③、④の行動以上に、積極的に指導する事例が多く、特に母親が「赤ちゃん」に関する話をする場合が目だった。保母の場合、子どもの行為はあくまで母親への愛情欲求の代償か、そうでなければ年長児の場合は狭い意味での「性的な」色合いを帯びるものと認識されているが、母親は後者の意味を子どもの行為の中にほとんど見ないという違いがあると言えるか。

父親は女兒よりも男児に対して受容的であるのに対し、母親は子どもの性別によって応対にあまり差がない傾向がみられたが、全般には父母の応対に大きな差異は無いと言ってよい。

〔女兒の事例〕

- 66) 1歳半(2歳児、父親)：入浴中、入浴後に→「女の子にはオチンチンはないよ、男の子だけだよ」
- 67) 1歳半頃(2歳児、母親)：風呂の中、風呂上がりなど、照れるように笑っていた→好きにさせ、「赤ちゃんの頃、こうやっておっぱい飲んだの」と、抱いて口につけて真似させたりした
- 68) 3歳時(4歳児、母親)：抱きついてオっぱイにさわる→抱いて煩ざりすると、すぐ離れて行った
- 69) 3歳時(3歳児、母親)：朝、父親が寝ている時、勃起しているオチンチンをパジャマの上から握ったりしてニコニコしている→「お父さん元気ね、男の人って不思議だね」と言うと、「うん」と言ってやめる
- 70) 3～4歳頃(4歳児、父親)：風呂に入っている時→母親が「このオチンコに入っていたんだよ」と言う。笑ってさわらせてやった。
- 71) 4歳時(5歳児、母親)：母親が妊娠している頃、入浴時オっぱイやおなかにさわる→「大きなおなかになったよ

ね」と言って笑い合った

- 72) 4歳時(6歳児、母親)：「ママのオっぱイ大きいね、○○ちゃんたちがのんじゃったのにね」などと言ってさわる→「赤ちゃんにオっぱイあげるように、おとなの女の人は大きい。今に○○も大きくなるよ。」
- 73) 5歳時(6歳児、父親)：珍らしそうにさわる→あまり気にせずそのままにしておく
- 74) 5～6歳時(6歳児、母親)：入浴時→いやだと言ったが、「だってさわりたい」と甘えている様子なので、気持ち悪くて困ったがさわらせてあげた

〔男児の事例〕

- 75) 2歳時(2歳児、母親)：赤ちゃんがオっぱイを飲んでいるとき、オっぱイに吸いつく→そのままやらせる
- 76) 2歳半(3歳児、父親)：妹が生まれてから多くなった→あまり気にせずそのままにしておく
- 77) 3歳から(4歳児、父親)：くすぐったり、身体的接触を含めて遊んでいる時→あまり神経質に注意しないで、他に注意を向ける
- 78) 3歳時(5歳児、父親)：入浴中、父親の性器をさわる→笑ってごまかす
- 79) 3歳時(5歳児、母親)：入浴中、オっぱイが出るかどうかと言って→さわらせて、「ほら出ないでしょ」と言った
- 80) 4歳から(5歳児、父親)：入浴中→あまり気にしない。逆にさわってやるとしなくなる。
- 81) 4歳時(4歳児、母親)：少し恥ずかしそうに「さわりたい」と言って→「お母さんのオっぱイ、僕がたくさん飲んだんだよ」と言うと、「僕があ?」と嬉しそうに笑う
- 82) 5歳頃まで(5歳児、母親)：夜寝る時オっぱイにさわる→「もう5歳になったんだからやめようね」
- 83) 5歳時(5歳児、母親)：一緒に入浴していて、ニヤニヤしながら→一度冗談に、お母さんのオっぱイにさわっているのはお父さんだけと言ったら、すごく怒って困ってしまった。さわりたいのならさわりたいと言ったらとても嬉しそうに満足そうだった。

⑥スカートめくりなどで遊ぶ

この行動の相手は友達・きょうだいが男女児とも最も多く、次いで母親など（事例85、91）となっている。保母の資料では「男児がする」場合の観察がほとんどであったが、女兒に関しても、「する」場合、「される」場合、そして女兒同士の「めくりっこ」が観察されている。事例87のように5歳の女兒同士が「めくりっこ」に興じている一方、事例88、89のように（相手は男児）「される」ことをいやがる様子もみられる。また事例93からは年長の男児が相手のいやがる行為であることを意識していることが確認できる。

保母の対応は⑤と同様比較的許容的であったが、父母ではさらにその傾向が強い。また父親の場合（観察者が少数であるが）男児に対して、母親では女兒に対してより許容的であり、男児の母親の対応の様子は保母と類似したものであった。

〔女兒の事例〕

- 84) 2歳時（6歳児、父親）：友達とみっともないからやめなさいと叱った
- 85) 3歳時（3歳児、母親）：叔母とふざけて→「スカートめくりは男の子がすること、女の子はめくられるんじゃないの？」
- 86) 4歳時（6歳児、母親）：遊んでいる時、友達同士で「何色パンツ？」などと言いながら→あまり気にせずそのままにしておく
- 87) 5歳時（5歳児、母親）：保育園などで→「おかしいからやめなさい、男の子に見られるわよ」

- 88) 5歳時（6歳児、母親）：保育園に入って、されたと言って一時スカートを嫌ったことがある

- 89) 5歳時（5歳児、母親）：保育園で男の子にスカートをめくられる話を家で話す→「男の子は面白がってやっているんだよ」と話す

〔男児の事例〕

- 90) 2～3歳時（3歳児、母親）：知っている子にだけ、おもしろがって→「やめなさい、泣いたら僕のせいだからね」

- 91) 3歳時（5歳児、母親）：母親の半ズボンの裾から手を入れる→「いやでしょ」と本人にもやってやる

- 92) 4歳時（4歳児、母親）：妹のスカートをあげ、二人で喜んでいる→あまり長くやっていると「もうおしまいね」と言う

- 93) 5歳時（5歳児、母親）：姉とけんかして仕返しに→姉が「だめ」と言って殴った

⑦テレビでキスシーンなどを見て恥ずかしがったり騒いだりする

この場面での子どもの様子について記述のあったものを表8に示した。事例によれば、画面についての発言は2歳からみられる（事例94）が、恥ずかしがったり、照れたりする反応は3歳から報告されており（事例95、100、104、105）、この年齢で既に、画面上のこの種の性的な行為を他から区別し、特別な情緒を喚起させるような認知が子どもに働いていると考えられる。さらに、「エロイ、恥ずかしい、おかしい」など明確な概念が獲得されるのは事例によれば4歳頃から（事例98、112、101）ということになる。このような性的行為に対する態度や価値観の形成に、周囲の大人の態度が手がかりとなることが、大人の顔を見たり、説明を求めようとする事例から推測できる（事例98、106、109、111、114）。

この行動への対応は注意・禁止は非常に少なく、「あまり気にせずそのまま」が今回分析の対象とした7つの行動の中で最も多かった。この傾向は父母同様であった。「キス」などについて説明を与える対応は年長児の場合に多かった（事例99、101、111、113）。

表8 テレビでキスシーンなどを見た時の子どもの様子
（1～6歳児：母親の観察）

	女兒	男児
普通に見ている	1.2	12.5
じっと見る	10.5	6.9
恥ずかしそう、照れながら、困っている、目をつぶる、下を向く、手で顔を隠す	24.4	20.8
騒ぐ、キスしたと喜ぶ、面白がる、ニヤニヤする	17.4	11.1
「恥ずかしいね、エッチ、エロイ、あっ いけないな、変なことしている、おかしいね」	8.1	9.7
「結婚している、愛し合っている、仲良ししてるね」	4.7	8.3
その他（回りの大人の顔を見るなど：事例参照）	3.5	11.1

*子どもの様子について記述のあった事例のみを計数し、全件数に対する百分率を示した。

〔女児の事例〕

- 94) 2歳から(3歳児、母親)：「チューしてるよ」とニコニコして見ている→「いいねえ」と言って一緒に見る
- 95) 3歳時(3歳児、父親)：恥ずかしそうに姉とつき合う→あまり気にせずそのままにしておく
- 96) 3歳10ヶ月(5歳児、母親)：「あっ、結婚してる」と言う→笑ってしまった
- 97) 4歳時(6歳児、父親)：「お父さんとお母さんでチューしてごらん」と言う→母親の手にしてみせる
- 98) 4歳時(6歳児、父親)：「エローイ、おかしいね」と話しかけてきた→あまり気にせずそのまま
- 99) 5歳時(5歳児、母親)：キスシーンを見てニマリ笑う→「大人になると、好き合っているもの同士キスしてもいいのよ」
- 100) 6歳時(6歳児、母親)：「恥しい、見ない」と言って、顔を隠す→笑ってしまう
- 101) 6歳時(6歳児、母親)：裸で抱き合ったりしているのを見ると、「あー、いけないな」とか、にやっしたりする→「いけないことじゃないのよ、二人とも愛し合ってるんだもの。大好きなんだって。パパもママも大好きだからチューするのよ。」

〔男児の事例〕

- 102) 2～3歳時(3歳児、母親)：真剣にみている→黙っている
- 103) 3歳時(3歳児、母親)：テレビを見ていて、キスしようと言った→キスをした
- 104) 3歳時(3歳児、母親)：少し照れた様子で面白がる→「変なことしてるね」と笑った
- 105) 3歳時(3歳児、母親)：顔を横や下にする→あまり気にせずそのまま
- 106) 4歳時(5歳児、父親)：意味が分からないので、父親の顔を見る→あまり気にせずそのまま
- 107) 4歳時(4歳児、父親)：顔を伏せる→男子と女子が仲良しだからだよ

- 108) 4歳時(5歳児、母親)：ニヤニヤしたり、嬉しそうな顔をしたり→内容によっては、話題をそらし、テレビから目をそらす方向に持っていく
- 109) 4歳時(5歳児、母親)：「お父さんとお母さんはああいこうことしないの？」→「しないよ」
- 110) 4歳時(4歳児、母親)：男の人と女の人が愛し合っているとと言う→「ほんとうね」
- 111) 5歳時(5歳児、父親)：テレビで強姦のシーンを見て、こっちの顔を見た→「あんな事をしちゃいけないね」と言った
- 112) 5歳時(5歳児、父親)：エロイと言ってニヤニヤした→一緒に笑う
- 113) 5歳から(5歳児、母親)：違う方を見たり、手で顔を隠したりする→「○○君だって、お母さんがおはようチュッてしてあげるでしょ」と話してやった
- 114) 5歳時(6歳児、母親)：その時の雰囲気で分かるらしく、父親や母親をわざわざ呼びにくる→下手に「見てはいけない」などと言わない方がいいと思い、一緒にみている。あまりどぎつい時は「子どもがあんまり見ていると、エッチな大人になっちゃうよ」と言う。

⑧その他の行動

以上の7項目以外に自由記述によって報告された事例には次のようなものがあった。

〔男児の事例〕

- 115) 3～4歳時(4歳児、母親)：漫画の裸とかパンツの絵を見てニヤニヤ喜ぶ→あまり気にせずそのまま
- 116) 4歳時(5歳児、母親)：兄弟で「あなた好きよ」とじゃれあって→「わあ、男同士で気持ち悪い」
- 117) 4歳時(4歳児、母親)：妹のパンツを下げお尻を見た→そういうことをしてはいけないと叱った
- 118) 4歳時(5歳児、母親)：デパートなどでマネキンのOPPパイにさわったり、パンツをはいてみたりする→そんなことしちゃ恥ずかしいよ
- 119) 5歳時(5歳児、母親)：テレビでセックスシーンを何回も見ていて、弟のパンツをぬがしてその上に乗ったことが

一度だけあった→その場にいた祖母が話をしてからはい

〔女児の事例〕

120) 4歳時(4歳児、母親):週刊誌で裸の写真の所だけを見ている→困ったが何も言わなかった

121) 4歳時(4歳児、母親):弟のオムツを取り替えているとき、オチンチンにさわったがる→あまり気にせずそのまま

122) 5歳時(6歳児、母親):姉妹で「ネエーン、あなたあ、お風呂へ入りましょ」と遊んだりする→見て黙っている

§3 討論

本報告を含む一連の報告(池田 1985、1986、1988)は、日常的な生活の場での幼児の性(および生命)に関する質問と行動の実態を総体的に捉えようと試みたものであった。父母からの資料と保母からの資料とは、資料収集の方法が異なるため直接比較できないにしても、相補的な性質を持つ。前者は、家庭という家族との関係を中心とした場で顕在化される性的な質問や行動を、その対象児の全生育史を回想する方法によって、「幼児」という母集団に対する限られたサンプルではあるが、当該の行動の量的な側面を検討すること、後者は同年齢の仲間との集団生活の場での質問・行動を約1年間のクラス担任の経験から回答してもらう方法であり、特に年齢差についての検討に資するものと考えられた。これら一連の結果と対応させながら今回の結果を検討する。

1. 家庭および保育所での性に関する質問と行動

家庭で父母に対して発せられた性に関する質問と父母の眼を通して収集された性的行動とを概観すると、次のような共通点が挙げられる。

- (1)子どもによる個人差が非常に大きい。
- (2)性器に直接関係する事柄以外、性差があまり見られない。
- (3)家庭による違いはあるが、一般に母親の方が父親よりも多くの質問を受け、多様な行動を観察している。
- (4)父母の対応が子どもの性別によって異なるような質問や行動のカテゴリーがある。

保育所で保母の眼を通して収集された質問・行動も、そのカテゴリーなどについては基本的に家庭と同様であった。両者の資料で大きな違いがみられたのは性差に関してである。

保母による資料では、

(1)質問:カテゴリーによって女児からの質問経験者と男児からの経験者との比率に顕著な違いが認められる。

(2)行動:3歳児クラス以上での「性器いじり」を例外として、全体的に男児に関する観察経験が優勢である。

一方、父母の資料では上記のように性差はごく限られており、

(1)質問:カテゴリーと子どもの性別との交互作用は認められない。性器に関する発問の仕方に性差が指摘されたのみ。

(2)行動:「性器いじり」に関して女児より男児の方が多いという点以外、明確な性差は認められない。

保母の資料で性差が顕著であることの解釈については、サンプルの問題、回答方法に起因するバイアス、幼児にとって保母が同性か異性かということの効果、逆に女性である保母にとって男児と女児では性的行動の認知され易さが異なる可能性など、いくつかの点に言及している(池田 1986 p.43, 1988 p.53)が、この点の検証には、同一の対象児についての家庭と保育所における長期的な観察による縦断的資料が必要であろう。

発達の差異に関しては、父母と保母の資料は類似の傾向を示しており、3歳頃が質的な転換点と言えるようである。質問は2歳(保育所では1歳児クラスも含む)から見られるが、全てのカテゴリーの質問が出現するのは3歳であり、その質問内容も具体的で多様になっていた。行動についても同様で、父母の資料で全ての行動項目の事例が得られたのは3歳児以上の父母からであった。また、前節⑦で述べたように、狭い意味での「性的な事柄」に関して何らかの概念を獲得し、価値的態度を形成し始めるのもこの時期であることを示唆する結果であった。

2. 父母および保母の対応とセクシャリティ

性的行動に対する具体的な対応に関しては、父母・保母ともに類似した方略を用いていると言える。しかしながら、前報で述べた「許容度」については両者に大きな違いが認められた(図3)。父母の場合、保母より許容的な対応をする者が全ての行動に関してかなり多く、質問に対する両者の対応にあまり差が認められなかったのは著しい違いである。

保母の場合、許容度の高い順に、第1グループ「体にさわったがる」、第2グループ「スカートめくりなどで遊ぶ」「ウンチ、オチンコなどの言葉・・・」、第3グループ「トイレをのぞく」「性器を人に見せる」「性器をいじる」であった。父母の場合も、第1グループに「テレビでキスシーンなどを見て・・・」(父母のみの項目)を加

えると、同様の結果であった。この点では、子どもの顕在的な性的行動をカテゴライズする内的基準を想定した時、父母・保母ともに、類似した基準を持っていると言えよう。それでは、図3に示された量的な差異をどう考えるべきであろうか。前報で許容度に関連して、子どもの性的行動への応対が自己のセクシャリティの意識化を導く行為であることを述べたが、父母との比較において保母の許容度が低いことに関しては、セクシャリティのあり方以外の要因も指摘すべきであろう。第一は、保母が母子関係をモデルとしながらも、保育・教育の「専門家」として子どもに向かっている（あるいは

はそのように期待されている）ということである。集団生活の場としての他の子どもたちへの影響に対する配慮からも、家庭では見逃される状況が「指導」の対象として意識されることが考えられる。第二には、自明のことであるが、保母と子どもとは母子の、あくまでも擬似的な関係であるのに対し、父母と子どもは「肉親」とであるという点である。許容度はタブー性（の低さ）の尺度でもあると述べたが、一般に、家庭という場では近親相姦などの最も強いタブーが働いていることに対応する形で、性的タブー性は弱められており、特に幼い子どもと両親の間ではその傾向が強い。女兒が父親と、男児が母親と入浴し就寝することに性的な色合いを取り出すことはせず、育児方法としての「スキンシップ」が強調される。むしろ、この関係に性的な意味を見ることがの方がタブーであると言ってよい。今回の様々な事例からも、家庭という場が性に関してかなり開放的であり、それ故子どもに多様な情報を提供する学習の場であることが認められる。この点で、「非肉親」の集団である保育所と家庭とは、子どものセクシャリティの形成にとって質の異なる環境を提供していると考えられる。

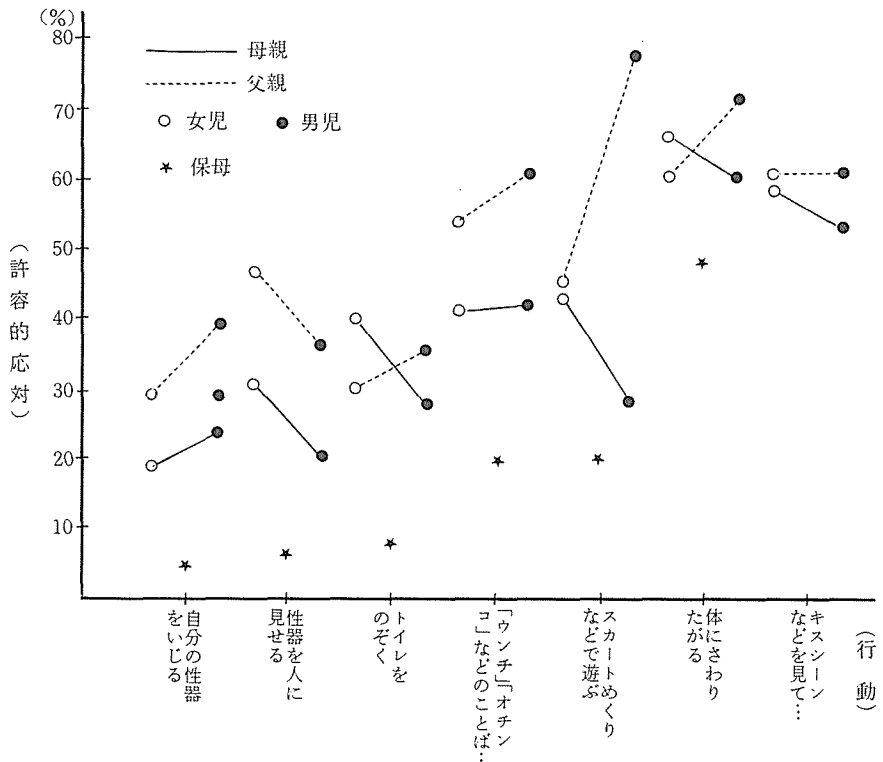


図3 各行動に対する許容的応対の割合（父母と子どもの性別及び保母との関係）

「あまり気にせずそのままにしておく」及び行動によっては「一緒にふざける」「機会を捉えての積極的指導」を含めた応対の各群全件数に対する百分率を示した。

次に、男性である父親と女性である母親とを比較すると、質問よりも行動に対して応対の違いが多くみられた。図3のように、概して父親の方が母親よりも許容度が高い。子どもの性別との関係は行動により異なっている。「テレビでキスシーンなどを見て・・・」「ウンチ、オチンコなどの言葉・・・」に対する許容度は、父親も母親も男児と女兒であまり差がない。一方、「自分の性器をいじる」は、父親が男児に対してより許容的であり、「性器を人に見せる」については父母ともに女兒に対しての方が許容的である。後者の行動に関連して、山村ほか(1988)の幼児の保護者を対象とした調査によれば、家外での排泄行為を禁止するような指導を「行っていない」と答えた者の割合は、2～6歳のどの年齢についても7～20%程度男児の親の方が多かった。この二つの行動は生理的行為と、他の動機を含む意図的な行為という性質の違いがあるが、女兒に対しては、生理的な行為ではあっても家の「外」という基準が重く、男児の場合は家の「内・外」という二重基準よりも生理的行為が否かという動機の方が重視されると仮説しておきたい。

「トイレをのぞく」「体にさわりたいがる」は、父母とも

に同性の子どもに対してより許容的な傾向がある。これは、他の行動と異なり、ほとんどの事例が子どもとの直接的な交渉の場面で、父母は観察者でありかつ「のぞかれる」「さわられる」当事者であることによるものであろうか。以上のような父母と子どもの性別との関係（同性関係か異性関係であるか）による対応の異同は、父親・母親としての役割行動および男性あるいは女性としてのセクシャリティの違いをどう反映しているのか、性に関する情報源としての家庭を考える時、大変興味深い問題である。

3. 結語

一連の報告により、資料の少なかった幼児の性・生命・死に関する質問および性に関する行動について、一定の実証的資料を提供し、これらの行動の普遍性についても

根拠を与えたと考える。さらに、幼児のセクシャリティの全体的な形成過程において、これらの行動がどのような意味を持つか明らかにされるべきであろう。

〈引用文献〉

- 1) 池田政子 1985 幼児の性・生・死に関する質問 (1) 父母に対して 山梨県立女子短期大学紀要 18 23-36
- 2) 池田政子 1986 幼児の性・生・死に関する質問 (2) 保母に対して 山梨県立女子短期大学紀要 19 37-44
- 3) 池田政子 1988 幼児の性的行動 (1)保母の眼を通して 山梨県立女子短期大学紀要 21 45-55
- 4) 村山貞雄(編著) 1988 『幼児の躰の国際比較に関する基礎調査』 多賀出版

(1988年11月16日受理)